

第2次 朝倉市観光振興指針

[令和6（2024）年度～令和9（2027）年度]



アサクラララ

明日、あさって、朝倉へ。

令和6（2024）年3月
朝倉市商工観光課

目次

1.第2次朝倉市観光振興指針の策定について

1.1 朝倉市観光振興指針策定の経緯	1
1.2 観光振興指針の位置付け	1
1.3 観光振興指針の期間	2
1.4 観光振興指針の内容・方針（ビジョン）	2

2.朝倉市の観光の現状分析

2.1 朝倉市の概要	3
2.2 朝倉市の主な観光資源	4
2.2.1 自然・施設	4
2.2.2 歴史・文化	5
2.2.3 農産物・食品	6
2.2.4 祭り・イベント	7
2.3 統計からみる観光の現状について	8
2.3.1 日本国内居住者の旅行市場の概要	8
2.3.2 福岡県の状況	12
2.3.3 朝倉市の状況	15
2.4 朝倉市の観光の課題について	23

3.朝倉市観光振興指針の基本方針

3.1 テーマの設定	26
3.2 ターゲットの設定	27
3.3 基本方針	28

4.計画の推進

計画の推進	29
-------	----

1.第2次朝倉市観光振興指針の策定について

1.1 策定の経緯

平成20（2008）年3月に策定された「朝倉市観光基本計画」は、平成20（2008）年度から平成29（2017）年度までの10年間を期間と定め、観光振興を通じて、さらなる地域活性化を実現するために策定しました。

その後、新たな観光振興の方針を策定するにあたり、「第2次朝倉市総合計画（令和元（2019）年～令和4（2022）年）」に盛り込まれた観光の将来像や施策との整合性を図るため、第2次朝倉市総合計画における基本目標を、よりとらえ易い将来像及び具体的な施策を盛り込んだ指針として「朝倉市観光振興指針」が令和2（2020）年度～令和5（2023）年度を期間として策定しました。

しかし、令和2（2020）年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、観光を取り巻く状況が一変しました。訪日観光客については、令和2（2020）年1月から入国制限や海外渡航禁止等の措置が講じられたことなどにより、大幅に減少しました。また、日本国内における感染拡大により、令和2（2020）年4月7日に東京など7都府県を対象に緊急事態宣言が発令され、令和2（2020）年4月16日には全国に拡大されました。令和2（2020）年5月14日に39県、5月25日には全国で解除されましたが、観光に対する影響は極めて大きく、朝倉市においては令和2（2020）年における観光入込客数はコロナ前の前年（令和元（2019）年）の300.7万人から187.5万人と激減しました。イベントなども中止が相次ぎ、朝倉市観光振興指針における施策の実施が困難な状況になりました。

令和5（2023）年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になったことにより、制約なく観光振興を行うことが出来る環境となり、朝倉市としても様々な観光振興施策に取り組んできましたが、いまだにコロナ前の2019年の水準には回復していない状況です。

そこで、第2次朝倉市観光振興指針（以下「観光振興指針」）においては新型コロナウイルス感染症下で十分に実施が出来なかった「朝倉市観光振興指針」の内容を踏まえ、「第3次朝倉市総合計画」（令和5（2023）年度～令和8（2026）年度）の施策との整合性を図り、令和6（2024）年度～令和9（2027）年度を期間として、策定致します。

1.2 位置付け

観光振興指針は、市の最上位に位置する総合計画の個別計画として位置付けられます。併せて、観光振興指針における内容については「第2期朝倉市総合戦略」との整合性を図ります。

1.第2次朝倉市観光振興指針の策定について

1.3 期間

観光振興指針の期間は令和6（2024）年度から令和9（2027）年度までの4年間とします。第1次観光振興指針の期間が令和2（2020）年度から令和5（2023）年度までの4年間であり、それを踏襲したものです。

1.4 内容・方針（ビジョン）

第3次朝倉市総合計画の基本構想では「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」とあり、分野別の基本目標で「4. 活力ある産業と魅力的な観光資源があるまちづくり」が掲げられています。

施策「17. 観光の振興」において「魅力・PRの推進」、「観光情報提供の充実」、「観光資源の活用」、「水をテーマとした観光推進」の4つの基本事業が挙げられており、特に「水をテーマとした観光推進」が重点分野となっています。

観光振興指針は、対象期間内において「17. 観光の振興」を果たしていくために、具体的な取り組みを掲げ、業務を遂行し、期間終了後は継承すべき、また見直すべき取り組みの選別を行っていきます。

また、近隣市町村や県、国の動向を見定めつつ、朝倉市の観光振興に資する制度の活用を行っていき、関係人口の動向も注視しながら施策を進めていきます。

魅力・PRの推進

観光情報提供の充実

観光資源の活用

水をテーマとした観光推進



筑後川の鴨飼

2.朝倉市の観光の現状分析

2.1 朝倉市の概要

朝倉市は、福岡県のほぼ中央部に位置し、福岡市の南東約30 km、久留米市の北東約20kmに位置しています。総面積は246.71 km²で、東西に22.9 km、南北に17.4 kmの広がりを持ち、福岡県の面積の約5%に相当します。市域南部には九州一の大河筑後川が流れ、その支流の水に恵まれた緑豊かなまちです。また、人口は、50,559人（令和5（2023）年12月末現在）であり、伝統と個性あふれる歴史・文化、多様な観光資源に囲まれ、県内外から多くの観光客が訪れています。



2.朝倉市の観光の現状分析

2.2 朝倉市の主な観光資源

2.2.1 自然・施設

市北部には古処山や馬見山を代表とする800～1,000m級の山々が連なり、山裾から続く緩やかな南斜面には農地と市街地が形づくられます。市南部では筑後川が西に向かって流れ、この筑後川に注ぐ小河川とともに、多様な自然環境を形成しています。山地では、ツゲの原始林やヤマネといった希少生物、平地ではクスノキを代表とする鎮守の森が点在します。市東部の筑後川河畔には、福岡県随一の湧出量を誇り、ダブル美肌の湯として知られる原鶴温泉があり、九州では2か所でしか見られない鵜飼を鑑賞することができます。

この多様な自然環境をもとに、山々では九州自然歩道が整備され、寺内ダム（美奈宜湖）、江川ダム（上秋月湖）、小石原川ダム（令和あさくら湖）や小石原川ダム堤体そばの交通公園、あさくらマウンテンバイクパークでは、雄大な自然と人工の構造物との調和を楽しむことができます。三連水車は全国的にも有名であり、夏の風物詩として広く紹介されています。堀川用水に水を送るための山田堰は、筑後川中流四大堰のひとつで、築造当時の形を良く残し、平成26（2014）年9月、世界かんがい施設遺産に登録されました。

このほか、甘木公園の桜や紅葉、秋月杉ノ馬場の桜や黒門の紅葉、原鶴のひまわり園、キリンビール福岡工場のコスモスといった季節の花や紅葉は、豊かな自然環境を象徴するものとして、彩を添えています。

さらに、あまぎ水の文化村「水辺のふれあいゾーン」にオートキャンプ場を令和6（2024）年8月オープンに向けて、準備をしています。



山田堰



小石原川ダム

2.朝倉市の観光の現状分析

2.2 朝倉市の主な観光資源

2.2.2 歴史・文化

朝倉市は、豊かな自然環境と交通の要衝であることから、古くから人々が集い、様々な文化を育んできました。市南西部の平塚川添遺跡は、多重の環濠に囲まれた弥生時代後期から古墳時代初頭を中心とする集落跡で、発掘調査ののち、平塚川添遺跡公園として整備されています。平塚川添遺跡は日本古代史最大のロマンである邪馬台国と同時代であることから、市では、観光大使女王卑弥呼を毎年選出し、マスコットキャラクターとして卑弥呼ちゃんが観光PRを行っています。飛鳥時代では、斉明6(660)年に朝鮮半島の百済が滅び、翌年、日本（倭）は百済救援のため、宮を九州に遷したことが日本書紀に記されます。この朝倉橘広庭宮は朝倉市に所在したともいわれ、市内には、齊明天皇や中大兄皇子にまつわる多くの伝承が残されています。

中世になると、大宰府の官人であった大蔵氏の流れを汲む秋月氏が統治し、市内各所に山城が築かれます。秋月氏は豊臣秀吉に敗れ、黒田官兵衛の孫である黒田長興が秋月に入り、秋月藩初代藩主として秋月のまちづくりを進めます。城下町秋月は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されているほか、野鳥川や小石原川の治水・水利施設は今でも当時の知恵や工夫を偲ばせます。このほか、市内には恵蘇八幡宮、南淋寺、普門院、円清寺など由緒ある神社仏閣が多く佇んでいます。



平塚川添遺跡



恵蘇八幡宮

2.朝倉市の観光の現状分析

2.2 朝倉市の主な観光資源

2.2.3 農産物・食品

豊かな水、緩やかな南斜面と内陸性の気候、肥沃な土壌を活かし、多様な農産物が生産されています。平野部では米、麦、大豆の栽培をはじめ、全国でもトップブランドを誇る「博多万能ねぎ」のハウスが立ち並んでいます。中山間地では、柿、梨、ブドウ、イチジク、イチゴ「あまおう」など多彩な農産物が栽培され、夏から秋にかけてフルーツ狩りも楽しめます。

朝倉市の名物料理である筑前朝倉蒸し雑煮は、全国的にも珍しい蒸すタイプの雑煮です。この郷土の食文化に着目し、平成28（2016）年度からは市内の飲食店舗においてメニューの提供が始まりました。併せて、気軽に食べられることができるレトルト商品の開発を行い、お歳暮ギフトや市内外のイベントで販売されています。

ファームステーションバサロ、三連水車の里あさくら、あきづき市場では、地域の新鮮な農産物や加工品が販売され、年間を通して賑わいをみせています。



博多万能ねぎ（写真提供：JA筑前あさくら）



朝倉の柿

2.朝倉市の観光の現状分析

2.2 朝倉市の主な観光資源

2.2.4 祭り・イベント

歴史と伝統がある祭事として、バタバタ市（安長寺）、甘木祇園山笠（須賀神社）、三奈木おくんち（美奈宜神社：寺内）、蜷城おくんち（美奈宜神社：林田）、恵蘇八幡宮神幸祭（恵蘇八幡宮）のほか、おしろい祭り（大山祇神社）などがあり、秋月鎧揃えは伝統行事が復活したものです。

あさくら祭りや、キリンビール福岡工場の広大な敷地を利用したキリンコスモスフェスタが市内でも大規模なイベントです。また、サイクルタウンプロジェクトの一環として、あさくらマウンテンバイクパークイベント、あさくらサイクルフェスティバルが行われるほか、はちみつ祭りや甘木盆俄、トライアスロンのうちランを省いたカップスロンなど、民間主導においても多様な催しが開催されています。

令和2（2020）年の年末から猛威をふるった新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの祭事やイベントが中止、規模縮小されていましたが、令和5（2023）年に5類感染症に移行されたことに伴い、多くの祭事・イベントが復活しました。



蜷城おくんち 御神幸行列



キリンコスモスフェスタ

2.朝倉市の観光の現状分析

2.3 統計からみる観光の現状について

2.3.1 日本国内居住者の旅行市場の概要

日本国内居住者の旅行市場は新型コロナウイルス感染症により、令和2年（2020）年に大きく減少しました。令和4（2022）年の日本国内居住者の国内旅行の延べ旅行者数（宿泊旅行）については、観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると、2億3,246.7万人（前年比64.0%増）となっており、令和3（2021）年と比較し大きく回復傾向にあります。しかし、新型コロナウイルス感染症前の令和元（2019）年比では25.4%減となっており、まだまだ市場が回復していない状況です。また、日帰り旅行においても同様の傾向です。

海外旅行は観光庁「旅行・観光消費動向調査」によると新型コロナウイルス感染症前の令和元（2019）年に2,003.0万人でした。しかし、令和2（2020）年から「海外旅行については回収数が少ないことから、結果制度の観点から表章していない」とのことであり、旅行者数が公表されていません。

出国日本人数の推移の推移をみると、令和5（2023）年の出国日本人数は962.4万人であり、コロナ前の半分程度となっていることから、海外旅行についても回復傾向にあると考えられます。

日本国内在住者における国内旅行における延べ旅行者数の推移（宿泊旅行）（千人）

国内旅行

国内在住者

	宿泊旅行		観光・レクリエーション		帰省・知人訪問等		出張・業務	
		前年比		前年比		前年比		前年比
2013年	320,416	1.5%	176,421	2.7%	92,761	1.3%	51,233	-1.8%
2014年	297,343	-7.2%	160,026	-9.3%	86,385	-6.9%	50,932	-0.6%
2015年	312,985	5.3%	171,689	7.3%	87,258	1.0%	54,037	6.1%
2016年	325,658	4.0%	176,670	2.9%	93,222	6.8%	55,766	3.2%
2017年	323,328	-0.7%	178,615	1.1%	90,425	-3.0%	54,288	-2.7%
2018年	291,052	-10.0%	165,010	-7.6%	79,798	-11.8%	46,245	-14.8%
2019年	311,624	7.1%	171,727	4.1%	85,696	7.4%	54,201	17.2%
2020年	160,703	-48.4%	91,832	-46.5%	45,998	-46.3%	22,872	-57.8%
2021年	141,768	-11.8%	79,608	-13.3%	42,769	-7.0%	19,392	-15.2%
2022年	232,467	64.0%	144,828	81.9%	57,568	34.6%	30,071	55.1%

観光庁「旅行・観光消費動向調査」を基に作成

2.3.1 日本国内居住者の旅行市場の概要

日本国内在住者における国内旅行における延べ旅行者数の推移（日帰り旅行）（千人）

国内旅行

国内在住者

	日帰り旅行		観光・レクリエーション		帰省・知人訪問等		出張・業務	
		前年比		前年比		前年比		前年比
2013年	310,534	4.5%	206,272	5.3%	48,257	4.2%	56,006	1.9%
2014年	297,878	-4.1%	188,629	-8.6%	47,692	-1.2%	61,557	9.9%
2015年	291,730	-2.1%	193,702	2.7%	42,823	-10.2%	55,205	-10.3%
2016年	315,422	8.1%	208,799	7.8%	51,131	19.4%	55,491	0.5%
2017年	324,182	2.8%	207,575	-0.6%	52,774	3.2%	63,833	15.0%
2018年	270,727	-16.5%	188,850	-9.0%	40,018	-24.2%	41,859	-34.4%
2019年	275,478	1.8%	196,347	4.0%	40,974	2.4%	38,157	-8.8%
2020年	132,705	-51.8%	89,369	-54.5%	23,373	-43.0%	19,964	-47.7%
2021年	126,440	-4.7%	83,878	-6.1%	20,222	-13.5%	22,340	11.9%
2022年	185,387	46.6%	139,475	66.3%	26,527	31.2%	19,385	-13.2%

観光庁「旅行・観光消費動向調査」を基に作成

日本国内在住者における海外旅行における延べ旅行者数の推移（千人）

海外旅行

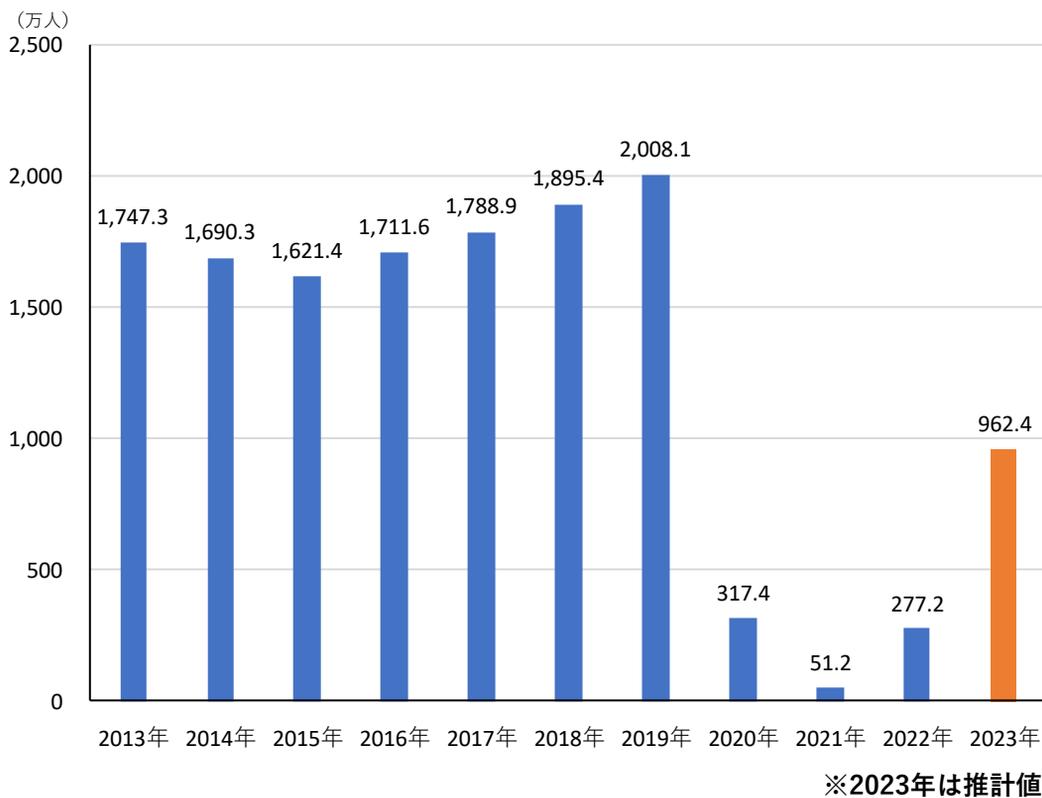
国内在住者

	海外旅行		観光・レクリエーション		帰省・知人訪問等		出張・業務	
		前年比		前年比		前年比		前年比
2013年	17,373	-5.6%	11,519	-6.6%	1,732	6.2%	4,122	-7.2%
2014年	16,916	-2.6%	10,776	-6.4%	1,485	-14.3%	4,655	12.9%
2015年	16,259	-3.9%	10,883	1.0%	1,733	16.7%	3,643	-21.7%
2016年	17,088	5.1%	11,154	2.5%	1,406	-18.9%	4,527	24.3%
2017年	17,876	4.6%	11,572	3.7%	1,948	38.5%	4,356	-3.8%
2018年	18,909	5.8%	13,666	18.1%	1,012	-48.0%	4,231	-2.9%
2019年	20,030	5.9%	14,221	4.1%	1,490	47.2%	4,319	2.1%

観光庁「旅行・観光消費動向調査」を基に作成

2.3.1 日本国内居住者の旅行市場の概要

出国日本人数の推移（日本政府観光局(JNTO)）

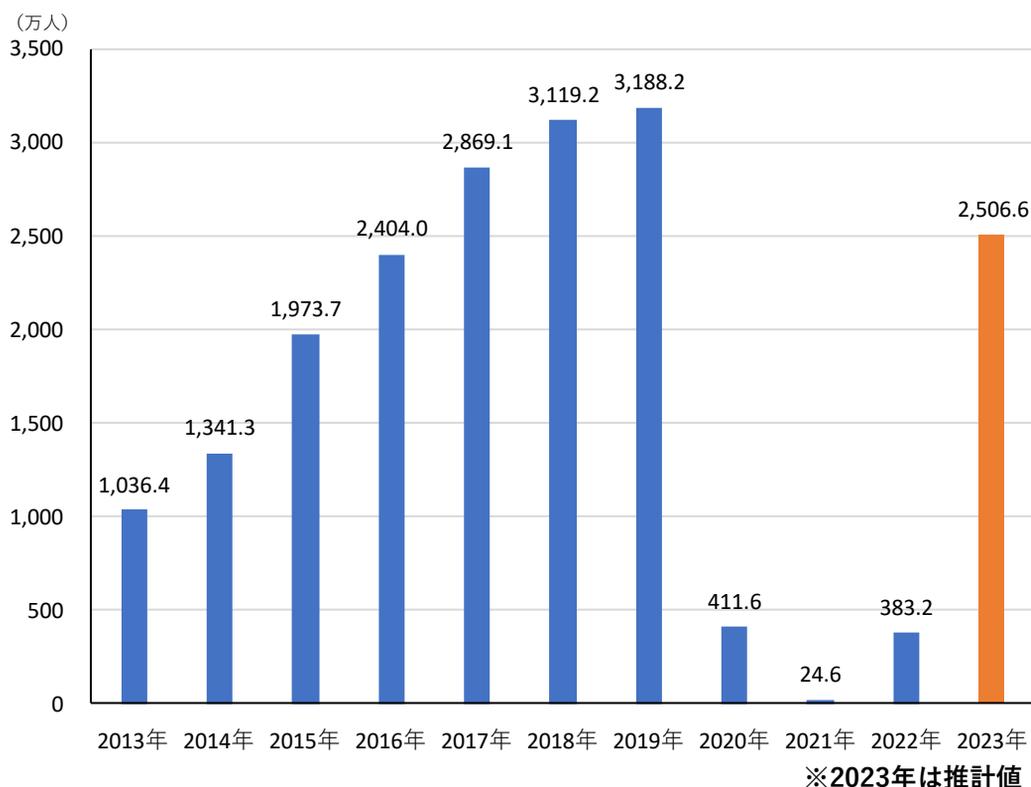


2.3.2 訪日外国人旅行者の現状

訪日外国人旅行者数は、令和元（2019）年までは、ビザの戦略的緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、CIQ 体制(※) の充実といった施策を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、魅力的なコンテンツの造成、日本政府観光局等による対外プロモーション等により、過去最高を更新し、3,188.2万人が日本を訪れていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う水際措置の強化などにより、令和2（2020）年の訪日外国人旅行者数は大きく減少しました。令和4（2022）年の6月に訪日外国人観光客の受入再開後、10月の入国者数の上限撤廃、個人旅行の解禁、ビザなし渡航の解禁等の水際措置の大幅緩和等により大きく増加しており、令和5（2023）年は2,506.6万人（推計値）となっています。

訪日外国人旅行者数の推移（日本政府観光局(JNTO)）



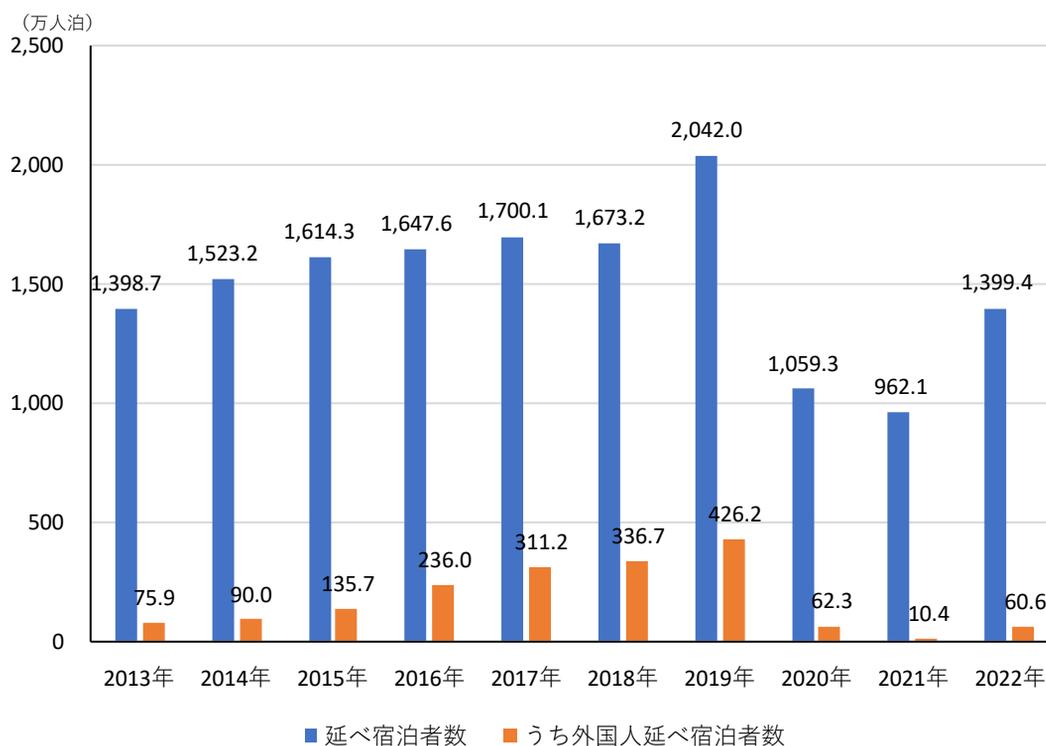
(※) 税関 (Customs)、出入国審査 (Immigration)、検疫 (Quarantine) の総称

2.3.3 福岡県の状況

福岡県の状況については日本国内居住者の旅行市場と同様に、新型コロナウイルス感染症により、令和2（2020）年に大きく減少しました。福岡県における延べ宿泊者数は令和元（2019）年は2,042.0万人泊でしたが、令和2（2020）年には1,059.3万人泊となり、半減しました。令和4（2022）年には1,399.4万人泊であり、回復傾向にはありますが、コロナ前の令和元（2019）年比では31.5%減となっており、まだまだ市場が回復していない状況です。外国人宿泊者数については令和元（2019）年には426.2万人泊でしたが、新型コロナウイルス感染症の水際措置などにより、大きく減少しています。

また、福岡県観光入込客推計調査における観光目的とした宿泊客や日帰り客についても令和2（2020）年に大きく減少しています。その影響により、観光消費額も大きく減少しています。

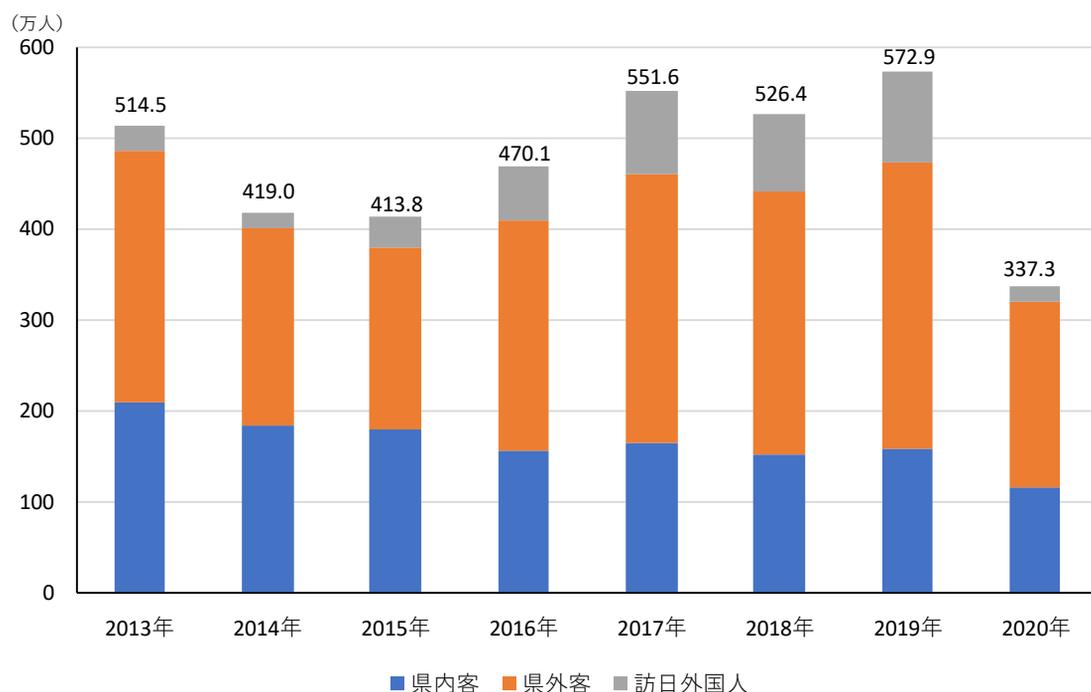
福岡県における延べ宿泊者数の推移



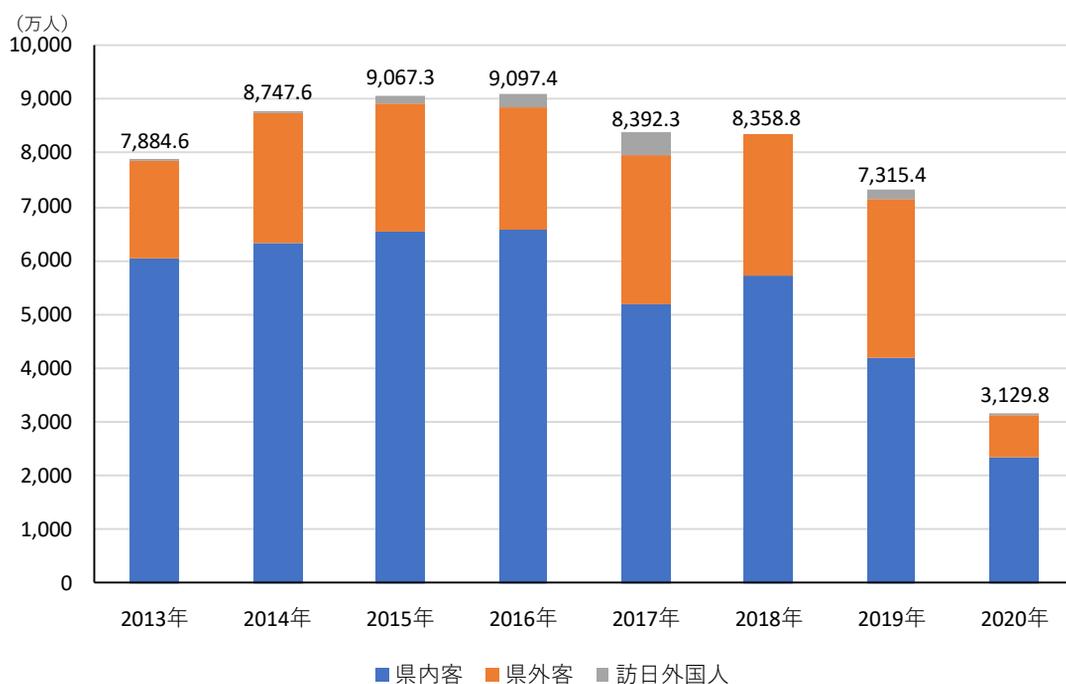
観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

2.3.3 福岡県の状況

福岡県観光入込客数（観光目的・宿泊客）（福岡県観光入込客推計調査）

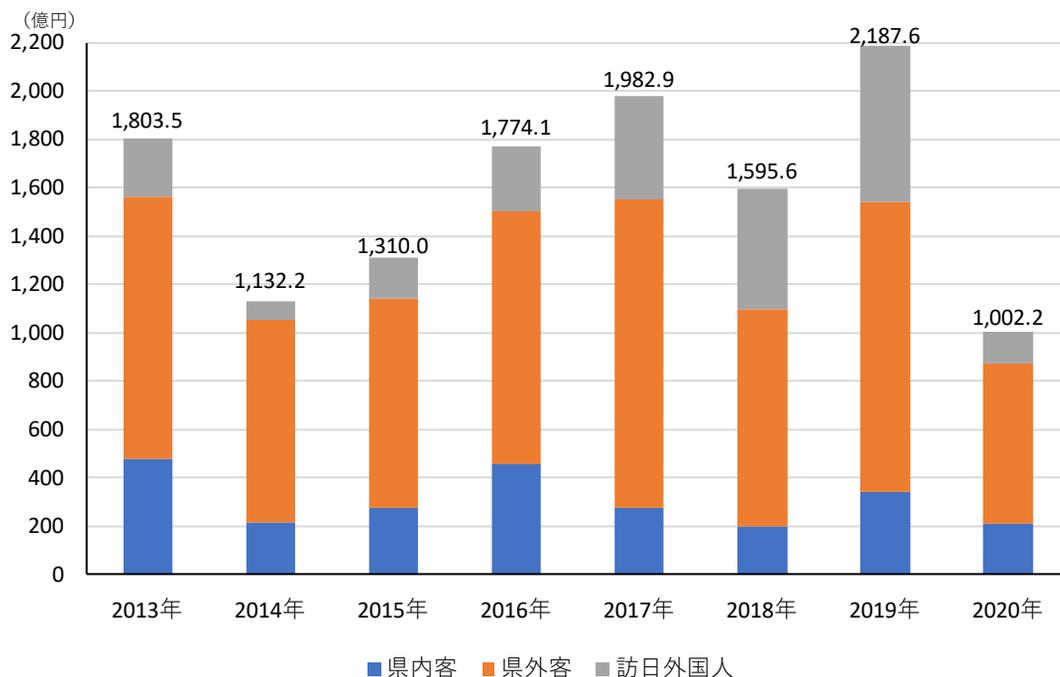


福岡県観光入込客数（観光目的・日帰り客）（福岡県観光入込客推計調査）

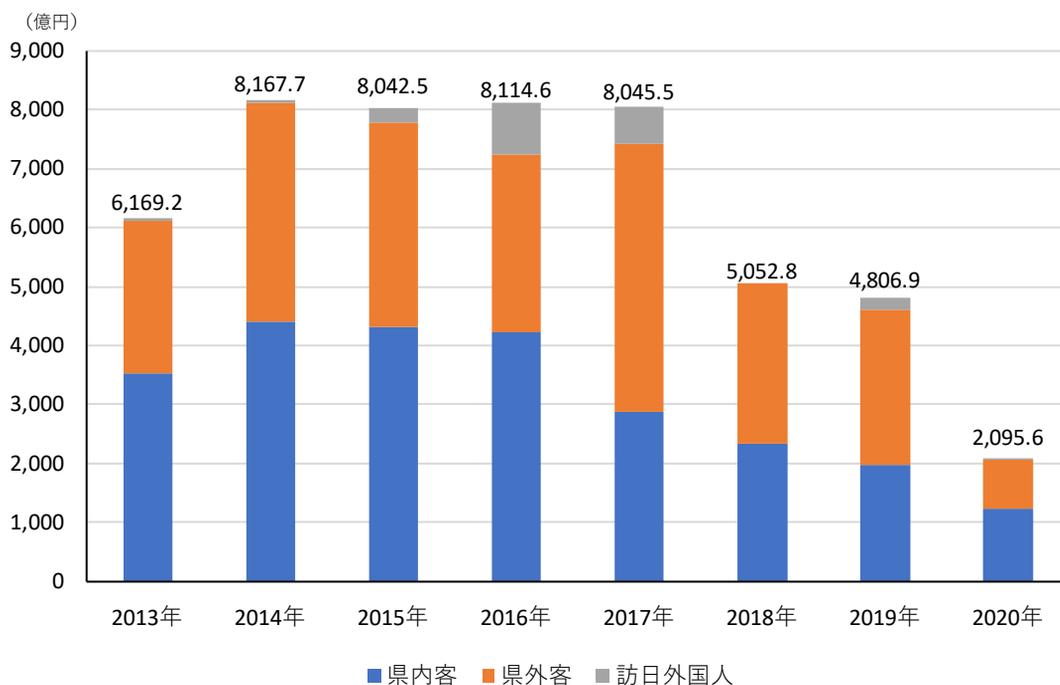


2.3.3 福岡県の状況

福岡県における観光消費額（観光目的・宿泊客）（福岡県観光入込客推計調査）



福岡県における観光消費額（観光目的・日帰り客）（福岡県観光入込客推計調査）



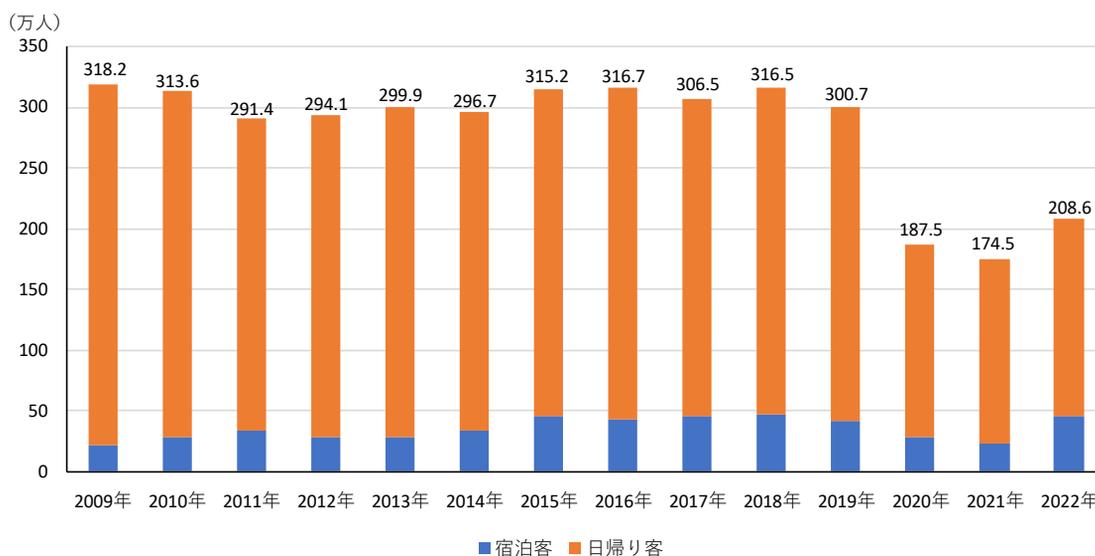
2.3.4 朝倉市の状況

朝倉市の観光客入込客数は、平成 29（2017）年の九州北部豪雨災害時にやや減少したものの、平成 30（2018）年には 316.5 万人と災害前までの状況に回復してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2（2020）年には187.5万人と大きく減少しています。令和4（2022）年においては208.6万人であり、コロナ前を大幅に下回っている状況です。

また、朝倉市の観光消費額の推移は、平成 27（2015）年から、わずかながら上昇に転じ、令和元（2019）年には約 72 億円まで回復していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3（2021）年には54.5億円と大きく減少しています。令和4（2022）年においては61.4億円であり、コロナ前を下回っている状況です。

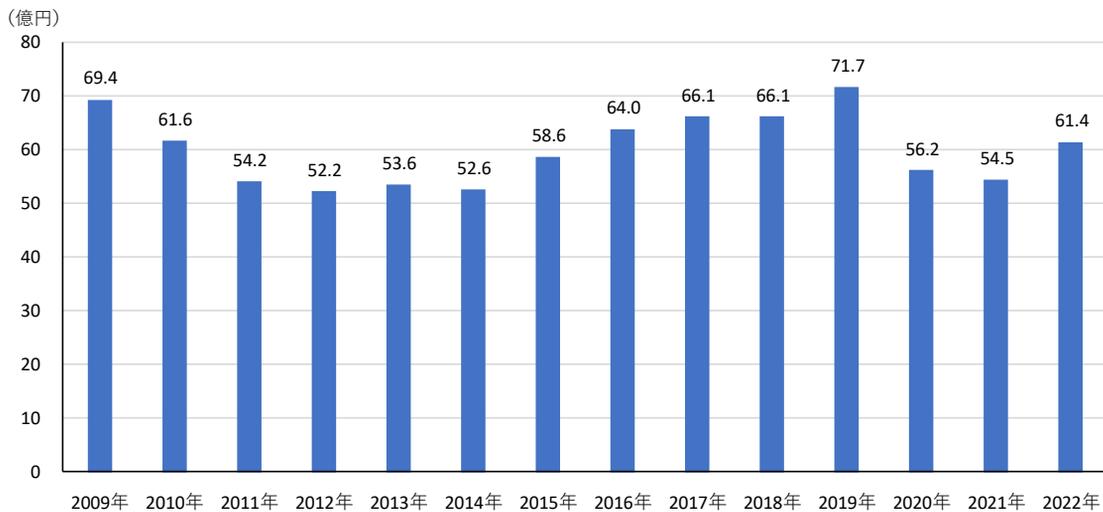
しかし、朝倉市における1人当たりの観光消費額は増加傾向であり、観光消費額合計が大きく減少した令和3（2021）年においても3,121円/人となっています。令和2（2020）年からの急激な1人当たりの観光消費額の増加については、令和2（2020）年9月から実施された「あさくら泊覧会」キャンペーンや令和3（2021）年9月から実施された「あさくら近泊ノススメ」キャンペーンなど、朝倉市や福岡県、国による旅行支援の効果が大きかったものと考えられます。

朝倉市観光入込客数（朝倉市観光入込客調査）

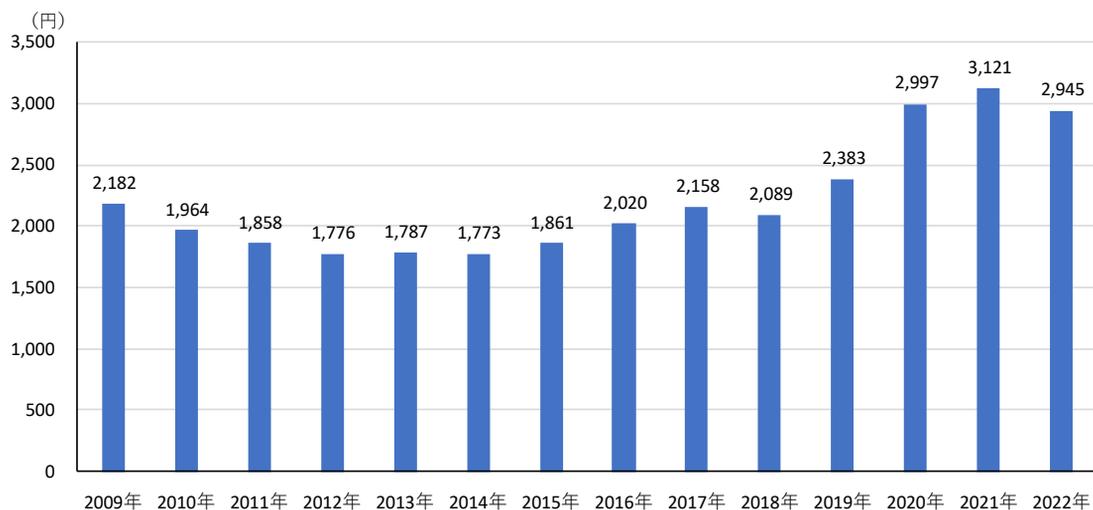


2.3.4 朝倉市の状況

朝倉市における観光消費額（朝倉市観光入込客調査）



朝倉市における1人当たりの観光消費額（朝倉市観光入込客調査）



2.3.5 朝倉市の観光に関する調査

朝倉市への来訪経験や朝倉市の観光地の来訪経験、認知度を調査するために、朝倉市の観光の主要マーケットである福岡県在住者を対象に調査を実施しました。調査は令和6（2024）年2月に株式会社マクロミルが運営するセルフ型アンケートシステムQuestantを利用して、Japan Cloud Panelに登録されている福岡県在住のモニターを対象にデータ収集を行ない、1,105件の回答を得ました。そのうち、1,092件の回答を有効回答としました。なお、朝倉市在住者については無効回答としました。

来訪経験

訪れたことがある方：65.0%

訪れたことはない方：35.0%

訪問経験があったとした方は、性別では男性（70.4%）が女性（55.6%）より多い結果となりました。また、年齢別では70歳以上（79.4%）、60歳代（77.3%）の方が多く、年齢が高い方が、その割合が高い結果となりました。

地域別では朝倉市に近い筑後地域（79.4%）の方が高い結果となりました

福岡県在住者の朝倉市への来訪経験について（回答数1,092件）

		訪れたことがある		訪れたことはない		
		回答数（件）	割合	回答数（件）	割合	
全体		(1,092件)	710	65.0%	382	35.0%
性別	男性	(693件)	488	70.4%	205	29.6%
	女性	(399件)	222	55.6%	177	44.4%
年齢	20歳代	(34件)	12	35.3%	22	64.7%
	30歳代	(105件)	47	44.8%	58	55.2%
	40歳代	(237件)	133	56.1%	104	43.9%
	50歳代	(318件)	207	65.1%	111	34.9%
	60歳代	(238件)	184	77.3%	54	22.7%
	70歳以上	(160件)	127	79.4%	33	20.6%
地域	北九州地域	(262件)	131	50.0%	131	50.0%
	福岡地域	(639件)	436	68.2%	203	31.8%
	筑豊地域	(60件)	39	65.0%	21	35.0%
	筑後地域	(131件)	104	79.4%	27	20.6%

2.3.5 朝倉市の観光に関する調査

来訪回数

最多：6回以上（39.9%）

次点：2～3回（28.7%）

朝倉市への来訪経験があるとした方に来訪回数についてお聞きしたところ、来訪回数は6回以上が39.9%と最も多く、次いで、2～3回（28.7%）が多い結果となりました。

性別ではほぼ同様の傾向となりました。また、年齢別では40歳代以上の方は6回以上が最も多い結果となりましたが、30歳代では2～3回（40.4%）が最も多く、20歳代では1回（41.7%）が最も多い結果となりました。

福岡県在住者の朝倉市への来訪回数について（回答数710件）

	1回		2～3回		4～5回		6回以上	
	回答数（件）	割合	回答数（件）	割合	回答数（件）	割合	回答数（件）	割合
全体	(710件)	107 15.1%	204 28.7%	116 16.3%	283 39.9%			
性別	男性 (488件)	73 15.0%	129 26.4%	76 15.6%	210 43.0%			
	女性 (222件)	34 15.3%	75 33.8%	40 18.0%	73 32.9%			
年齢	20歳代 (12件)	5 41.7%	4 33.3%	1 8.3%	2 16.7%			
	30歳代 (47件)	10 21.3%	19 40.4%	5 10.6%	13 27.7%			
	40歳代 (133件)	26 19.5%	39 29.3%	20 15.0%	48 36.1%			
	50歳代 (207件)	35 16.9%	54 26.1%	37 17.9%	81 39.1%			
	60歳代 (184件)	18 9.8%	55 29.9%	23 12.5%	88 47.8%			
	70歳以上 (127件)	13 10.2%	33 26.0%	30 23.6%	51 40.2%			
地域	北九州地域 (131件)	36 27.5%	52 39.7%	19 14.5%	24 18.3%			
	福岡地域 (436件)	55 12.6%	119 27.3%	73 16.7%	189 43.3%			
	筑豊地域 (39件)	6 15.4%	15 38.5%	5 12.8%	13 33.3%			
	筑後地域 (104件)	10 9.6%	18 17.3%	19 18.3%	57 54.8%			

2.3.5 朝倉市の観光に関する調査

来訪目的

観光 (73.4%)

買い物 (30.4%)

朝倉市への来訪経験があるとした方に来訪目的についてお聞きしたところ、観光が73.4%で最も多く、属性別においても観光が最も多い結果となりました。次いで、買い物が30.4%と多い結果となりましたが、年齢別では30歳代 (17.0%) と他の年齢と比較し、少ない結果となりました。また、地域別では北九州地域 (19.1%) が他の地域と比較し、少ない結果となりました。食事が全体で24.4%、ビジネスが20.1%となりましたが、ビジネスでは男性 (27.9%) と多く、女性 (3.2%) と大きな差がありました。

福岡県在住者の朝倉市への来訪目的について (回答数710件)

		観光		買い物		食事		ビジネス	
		回答数 (件)	割合						
全体	(710件)	521	73.4%	216	30.4%	173	24.4%	143	20.1%
性別	男性 (488件)	355	72.7%	141	28.9%	117	24.0%	136	27.9%
	女性 (222件)	166	74.8%	75	33.8%	56	25.2%	7	3.2%
年齢	20歳代 (12件)	6	50.0%	5	41.7%	2	16.7%	0	0.0%
	30歳代 (47件)	30	63.8%	8	17.0%	11	23.4%	11	23.4%
	40歳代 (133件)	94	70.7%	42	31.6%	29	21.8%	19	14.3%
	50歳代 (207件)	145	70.0%	66	31.9%	53	25.6%	49	23.7%
	60歳代 (184件)	145	78.8%	58	31.5%	47	25.5%	38	20.7%
	70歳以上 (127件)	101	79.5%	37	29.1%	31	24.4%	26	20.5%
地域	北九州地域 (131件)	107	81.7%	25	19.1%	21	16.0%	21	16.0%
	福岡地域 (436件)	317	72.7%	138	31.7%	110	25.2%	95	21.8%
	筑豊地域 (39件)	29	74.4%	13	33.3%	7	17.9%	2	5.1%
	筑後地域 (104件)	68	65.4%	40	38.5%	35	33.7%	25	24.0%
		親族・知人訪問		イベント		帰省		その他	
		回答数 (件)	割合						
全体	(710件)	82	11.5%	58	8.2%	18	2.5%	38	5.4%
性別	男性 (488件)	58	11.9%	44	9.0%	13	2.7%	26	5.3%
	女性 (222件)	24	10.8%	14	6.3%	5	2.3%	12	5.4%
年齢	20歳代 (12件)	1	8.3%	1	8.3%	1	8.3%	1	8.3%
	30歳代 (47件)	5	10.6%	0	0.0%	2	4.3%	3	6.4%
	40歳代 (133件)	12	9.0%	10	7.5%	2	1.5%	8	6.0%
	50歳代 (207件)	19	9.2%	22	10.6%	4	1.9%	11	5.3%
	60歳代 (184件)	27	14.7%	13	7.1%	7	3.8%	7	3.8%
	70歳以上 (127件)	18	14.2%	12	9.4%	2	1.6%	8	6.3%
地域	北九州地域 (131件)	8	6.1%	5	3.8%	1	0.8%	7	5.3%
	福岡地域 (436件)	49	11.2%	37	8.5%	13	3.0%	21	4.8%
	筑豊地域 (39件)	5	12.8%	1	2.6%	0	0.0%	4	10.3%
	筑後地域 (104件)	20	19.2%	15	14.4%	4	3.8%	6	5.8%

2.3.5 朝倉市の観光に関する調査

【朝倉市の観光地の訪問経験と認知度について】

朝倉市の主要観光地20カ所について、その来訪経験と認知度（※）を調査しました。その結果、来訪経験では「秋月城下町」が最も多く、「三連水車の里あさくら」、「原鶴温泉」、「麒麟ビール福岡工場」、「道の駅原鶴」と続きました。また、認知度については「原鶴温泉」が最も多く、「秋月城下町」、「三連水車の里あさくら」、「麒麟ビール福岡工場」、「筑後川の鵜飼」と続きました。

認知度の高い観光資源



秋月城下町



三連水車の里あさくら

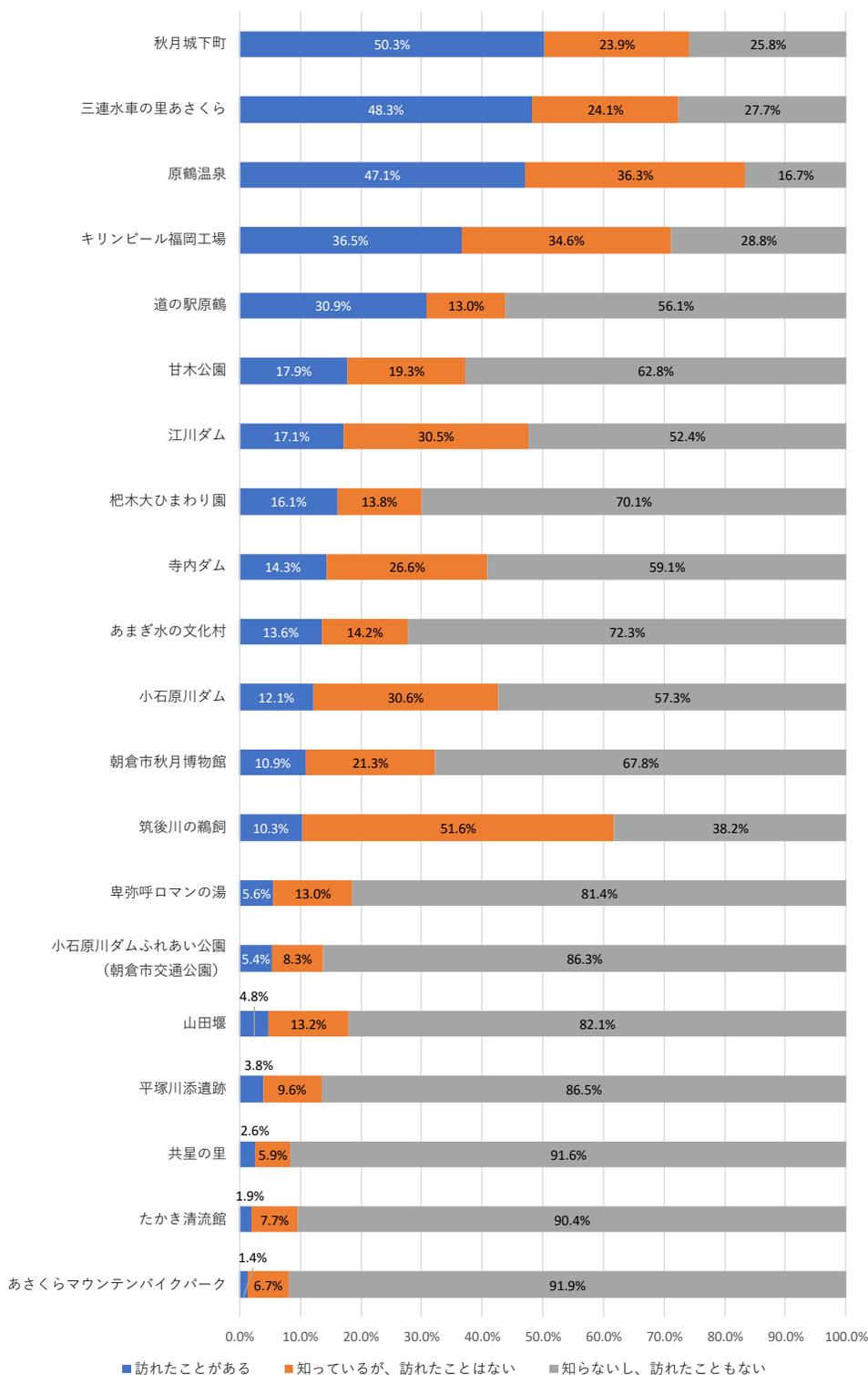


原鶴温泉

※「訪れたことがある」と「知っているが、訪れたことはない」の割合を合わせた割合を認知度とした。

2.3.5 朝倉市の観光に関する調査

朝倉市の観光地の訪問経験と認知度について (n=1,092)



2.3.6 秋月城下町における観光動態について

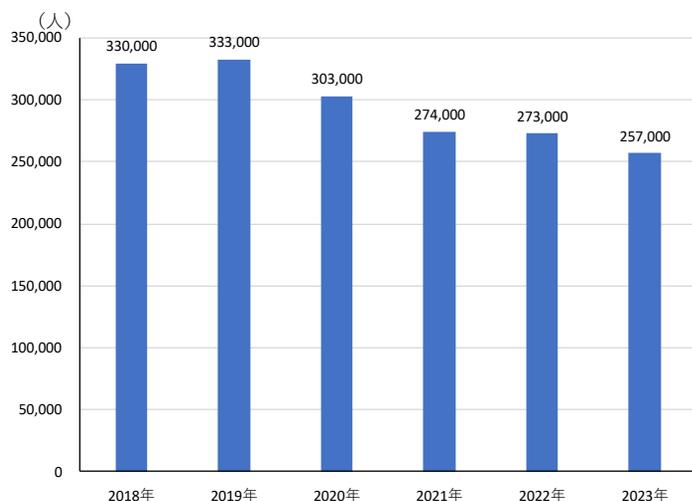
朝倉市の主要観光地である秋月城下町について「KDDI Location Analyzer※1」を用いて、来訪者の属性分析を行いました。

秋月城下町の中心部から半径500mを商圏としました。2018年の来訪者数（15分以上滞在）は330,000人でしたが、その後、減少傾向にあり、2023年には257,000人と推計されました。なお、居住者、勤務者を除く来街者を来訪者としています。

性別は2023年においては男性が48%、女性が52%とほぼ同程度となっていました。

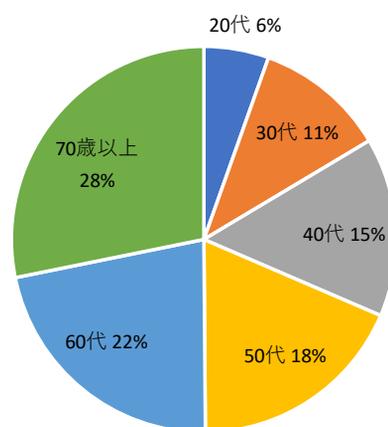
年齢別では70歳以上が最も多く、次いで60歳代、50歳代と続きました。20歳代については6%、30歳代は11%であり、若い世代の割合は多くありませんでした。

秋月城下町における来訪者数（15分以上滞在）の推移



(データはKDDI Location Analyzerより)

秋月城下町における来訪者の年齢について



(データはKDDI Location Analyzerより※2)

※1 データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

※2 データの端数処理はデータ提供者との協議による。

2.3.7 原鶴温泉周辺地域における観光動態について

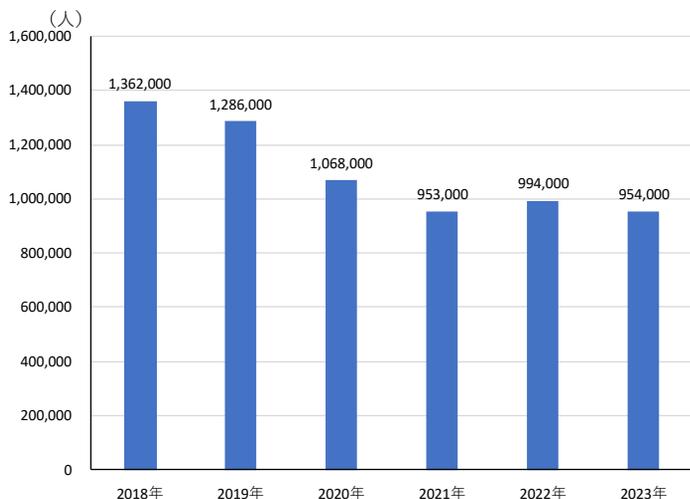
原鶴温泉周辺地域について、秋月城下町と同様に「KDDI Location Analyzer※1」を用いて、来訪者の属性分析を行いました。

原鶴温泉周辺地域は原鶴温泉の中心部から半径500mを商圈としました。商圈には道の駅原鶴を含みます。2018年の来訪者数（15分以上滞在）は1,362,000人でしたが、その後、減少傾向にあり、2023年には954,000人と推計されました。なお、居住者、勤務者を除く来街者を来訪者としています。

性別は2023年においては男性が47%、女性が53%とほぼ同程度となっていました。

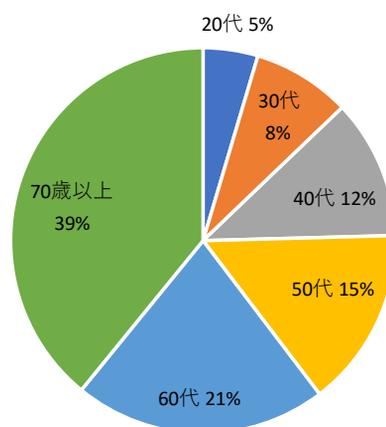
年齢別では70歳以上が最も多く、次いで60歳代、50歳代と続きました。20歳代については5%、30歳代は8%であり、若い世代の割合は多くありませんでした。

原鶴温泉周辺地域における来訪者数（15分以上滞在）の推移



（データはKDDI Location Analyzerより）

原鶴温泉周辺地域における来訪者の年齢について



（データはKDDI Location Analyzerより※2）

※1 データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計しております。

※2 データの端数処理はデータ提供者との協議による。

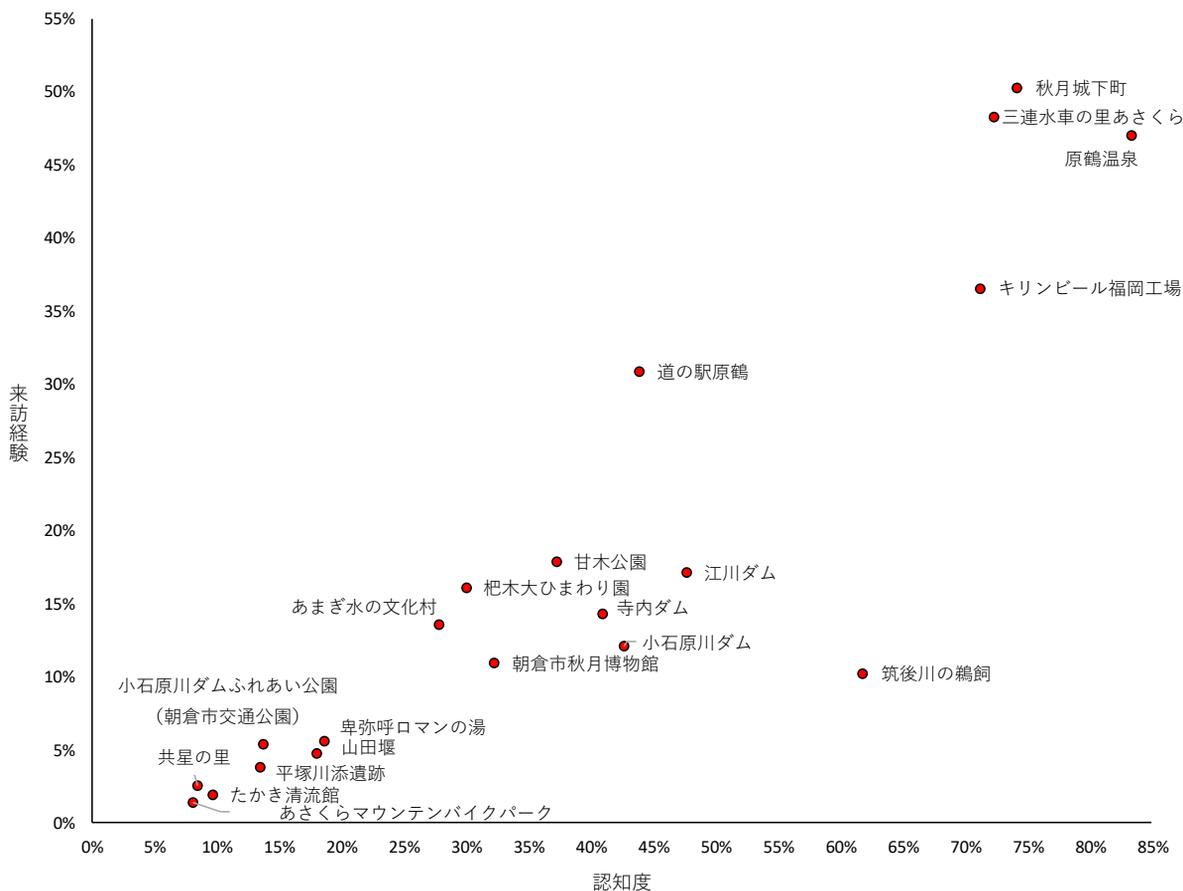
2.朝倉市の観光の現状分析

2.4 朝倉市の観光の課題について

朝倉市は観光資源が数多く点在していますが、各地域のつながりやネットワーク、他の観光地との差別化、個人観光客への対応が不十分な状況です。特に朝倉市への来訪経験や秋月城下町や原鶴温泉周辺地域における来訪者の年齢のデータから20歳代、30歳代の割合が少なく、若い世代の取り込みが不十分なことが課題と言えます。

観光資源においても「秋月城下町」、「三連水車の里あさくら」、「原鶴温泉」のように来訪経験、認知度ともに高いものもあれば、来訪経験、認知度ともに低く、今後、磨き上げが必要な観光資源も多くあります。

観光資源における来訪経験と認知度について



(朝倉市の観光に関する調査結果より作成)

認知度向上と情報発信

まずは認知度向上が重要であり、そのためには情報発信やPRを行っていく必要があります。しかし、多様化する情報発信ツールを十分に活用できていない状況にあることが課題であると言えます。市内の観光地やイベント、祭りを発信する広告や宣伝・PR、プロモーション活動を行うにあたり、朝倉市の魅力を十分に伝え広めている状況とは言い難く、発信力の強化が引き続き求められます。特にSNSの発達により若い世代を中心に、旅行の行先等を検討する際にそれらのツールから得られた情報を参考とする傾向があることから、それらの活用も引き続き行っていく必要があります。観光情報を充実させる必要があると考えられます。加えて、現行の観光客が70歳以上、60歳代など年齢が高い方も多いため、紙媒体での情報発信も継続して実施していく必要があると考えられます。

観光資源を「点」から「面」でつなぐ

また、朝倉市らしい観光資源のつながりやネットワークづくりも課題であると思われます。市内を流れる筑後川で行われる鶴飼いや山田堰、三連水車など水をテーマとした地域資源が多くあり、これらを点ではなく面として捉え、広くPRしていくことも大切だと思われます。

朝倉市の観光全体においては、訪れる観光客に対して、居心地が良く、また訪れたいくなるようなおもてなしをするという雰囲気づくりを行い、観光客の満足度を上げることが重要となります。

このように多くの課題を抱える中、これらに対処すべき専門的な知識や技術を有した人材が不足しており、観光振興事業を行う際には、外部からの人材登用及び育成や、あさくら観光協会を始めとする民間事業者・ボランティアとの連携が重要となっています。また、民間企業や大学など多様な機関と連携を図っていくことも重要であると考えられます。

3.朝倉市観光振興指針の基本方針

現状分析と課題を踏まえ、朝倉市への来訪経験が少ない若い世代の誘客や観光資源の認知度向上のために、情報発信やPRを行っていく必要があります、特にSNSなどの活用や観光情報を充実させることが重要です。これらに加えて、現行の観光客が70歳以上、60歳代など年齢が高い方も多いことから、紙媒体での情報発信も継続して実施していく必要があると考えられます。また、朝倉市らしい観光資源のつながりやネットワークづくりも課題であると思われます。市内を流れる筑後川で行われる鶺鴒いや原鶴温泉、山田堰、三連水車など水をテーマとした地域資源を活かし、観光資源の魅力を高める必要があります。

そのために、次の4つの基本方針を柱とし、総合計画においても重点分野に設定している「水をテーマとした観光推進」を中心に、観光の振興に取り組めます。

3.1 テーマの設定

新型コロナウイルス感染症下において十分な取り組みが出来なかったことから、前回の「朝倉市観光振興指針」のテーマである「アサクラララ 明日、あさって、朝倉へ。」を踏襲し、テーマとして設定します。



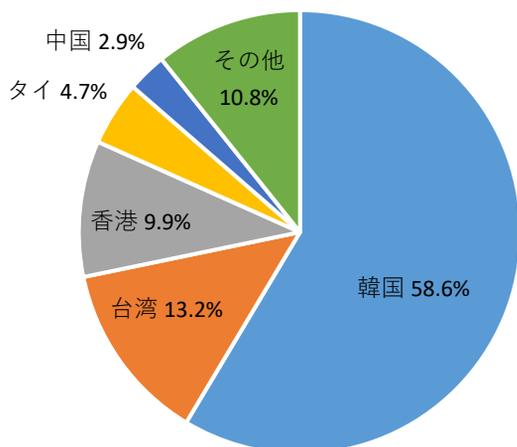
このロゴマークは平成30（2018）年度九州経済産業局との連携事業の中で設定したものです。五線譜は、朝倉市の「秋月・甘木・朝倉・原鶴・杷木」の5つのエリアと、右肩上がりでの気軽さ・楽しさを表し、音符には朝倉市復興計画のビジョン『山・水・土、ともに生きる朝倉』から三つの色を、そしてさりげなく行動を促すやさしいことばで、「うたうように、くちずさむように、ふらっと気軽に」朝倉市を訪れてほしいという思いを込めました。

3.朝倉市観光振興指針の基本方針

3.2 ターゲットの設定

市内外からの滞在人口、交流人口や関係人口の増加を目指すためには、新たな客層の取り込みと宿泊客の増加を狙っていく必要があります。新たな客層としては、観光客の年齢構成比からみても、**若い世代特に20歳代～30歳代を取り込み、将来にわたってリピーター**となるような仕掛けづくりが必要と考えられます。

福岡県の港（福岡空港・博多港など）から
入国した外国人の国籍・地域について



(2023年11月分、出入国管理統計)

国外からの観光客を迎え入れる

また、宿泊客の増加を目指す場合、国内だけでは大きな増加は望めないことから、海外からの観光客（インバウンド）を誘致することが併せて必要となります。最新の出入国管理統計（出入国在留管理庁）における福岡空港、博多港など福岡県の港から入国した外国人は韓国が**58.6%**と最も多く、次いで、台湾、香港と続いており、これらの地域が今後重視していく国・地域であると考えられます。また、今後、中国人観光客の入国について多くなっていくものと思われることから、その動向にも注視していく必要があります

3.朝倉市観光振興指針の基本方針

3.3 基本方針

①魅力・PRの推進

市内外の多くの人に、朝倉市の観光情報を発信し、朝倉市の魅力を知ってもらうことで、認知度の向上やイメージアップを図ります。その方法として、SNS やインターネットを活用した情報発信の他に、マスメディアに対しイベントの告知や季節の情報等を提供し、より多角的、広範囲の情報発信に努めます。また、観光協会などと連携し、リリース件数の増加と併せて、採用（掲載）件数の増加を目指します。認知度向上においては、朝倉市親善大使に委嘱された朝倉あきさんなど、朝倉市にゆかりがある著名人の方の協力を求めています。

加えて、朝倉市の食材や商品を扱うアンテナショップの活用による朝倉市の魅力のPRを行うとともに、新型コロナウイルス感染症で今まで行うことが出来なかった市内外でのイベントも強化していきます。

②観光情報提供の充実

朝倉市の魅力を知ってもらい、認知度アップと来訪意欲を高めるために、マスメディアやSNS等の様々な媒体を通じて、イベントや季節の情報等を積極的かつ広範囲に発信します。特にSNS等のインターネットを通じた情報提供の推進を図るとともに、パンフレットなどの紙媒体についても充実を図ります。

③観光資源の活用

市内に数多く点在している観光資源を効果的に結び付けて、市内の周遊を促します。また、体験・交流型観光資源のブランド力の強化を図り、滞在時間の延長、消費拡大に向けて取り組みます。特に、広域連携イベントを充実させ、朝倉市を点ではなく、近隣の地域も含め、面として観光先を選んで頂けるような工夫を行います。また、サイクルタウンプロジェクトの磨き上げを行います。

④水をテーマとした観光推進

水をテーマとした観光資源（3つのダム、あまぎ水の文化村、山田堰、三連水車、原鶴温泉、秋月城下町等）を「見る」「ふれる」「映える」「学べる」をキーワードに「水の回廊」として結び、新たな観光振興に取り組みます。

原鶴温泉や三連水車の里あさくら、秋月城下町は来訪経験、認知度ともに高いですが、筑後川の鶴飼や江川ダム、寺内ダム、小石原川ダムの3つのダムについては、認知度が40～50%であるのに対して、来訪経験が10～20%と差が大きいことから、来訪に結びつけることが重要であると考えます。認知度が低い観光資源も多く、その認知度向上が課題であると言えます。

そのため、特に朝倉市内の河川景観、ダム、その他河川構造物、温泉など、朝倉市の水に関する資源を相互に関連付け、各々の認知度や魅力を向上させ、観光資源として磨き上げるとともに、これらを用いた事業を展開します。また、あまぎ水の文化村「水辺のふれあいゾーン」にオートキャンプ場を新設し、さらなる来訪者の増加と魅力向上を図ります。

4.計画の推進

この指針に基づき、朝倉市の観光振興を進めていくためには、方針・計画の策定（Plan）・実施（Do）の後、効果検証（Check）を行い、改善策の検討・展開（Action）というPDCAサイクルを確立し、展開することが重要です。特に効果検証（Check）や改善策の検討・展開（Action）に当たっては、市民や来訪者の視点も踏まえながら、計画の進捗状況を把握するものとします。





第2次 朝倉市観光振興指針

[令和6(2024)年度～令和9(2027)年度]

発行：朝倉市商工観光課